

大垣は交通・軍事の要衝として古来から天下分け目の戦いの場になってきました。特に、関ヶ原合戦においては東西両軍の本拠が置かれるなど非常に重視されました。このことについて、当館所蔵の関ヶ原合戦図屏風や絵巻などを中心に展示します。

本年は、「大垣決戦」「舞台は関ヶ原へ」「秘話おあむ物語」「大垣周辺ゆかりの地」の4コーナーに分け紹介します。



## 「おあむ物語」

関ヶ原決戦後も大垣に立てこもった西軍は抵抗を続けた。その最中に、父山田去暦にひきいられ16歳の少女おあむは城を脱出する。

老後、この様子を語った物語です。

## 重要文化財 関ヶ原合戦図屏風 (8曲1双のうち右隻) 複製

桃山時代 原資料は大阪歴史博物館蔵

慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いのうち、9月14日、赤坂・大垣における両軍対峙の様子と、翌15日、本戦後の追撃戦のありさまを描いています。成立は、合戦からあまり時間の経っていない段階と考えられます。

『津軽藩旧記伝類』の「藤原氏旧記」によると、この屏風はもともと2双のもので、慶長17年、徳川家康の養女満天姫が弘前城主津軽信枚に嫁ぐとき、家康に泣いて懇願し、輿入れ道具として2双のうち1双をようやく預けおかれたものとされています。

## 関ヶ原合戦図屏風 (6曲1双) 大正11(1922)年 藤井介石筆

不破郡の大正時代の絵師藤井介石の作。彦根城(井伊家)本系統の図柄をもとに描かれた。近代的な視点から山や川、池などを遠近感豊かに描き、地理的にも的確にとらえています。地元関ヶ原出身の絵師ならではの表現です。

## 井伊家本 関ヶ原合戦図屏風 (6曲1隻) 複製

江戸時代後期 原資料は彦根城歴史博物館蔵

井伊家本の関ヶ原合戦屏風図も、価値の高い屏風として知られています。この屏風では、中央に井伊家の赤備えの武者たちが大きく描かれています。江戸時代後期に井伊家の依頼で、狩野派の絵師が描いたものですが、正確な武将の配置と評されていて資料価値の高いものです。

# 関ヶ原合戦と大垣展

2017  
7/8  
土曜日  
9/10  
日曜日

【会場】大垣市郷土館 1階 郷土美術室  
【休館日】毎週火曜日、7/19(水)、8/14(月)  
【開館時間】9:00~17:00(入場は16:30まで)

【入館料】一般100円、高校生以下無料  
【主催】公益財団法人 大垣市文化事業団  
(大垣市指定管理事業)



大垣市郷土館 Ogaki Museum of Local History  
〒503-0888 大垣市丸の内2丁目4 TEL・FAX 0584(75)1231  
<http://www2.og-bunka.or.jp/bunka/manage/kyoudo.html>

